

「くらしを守り」賃上げの社会的広がりへ



～2023春闘勝利総決起集会～



主催者挨拶をする澤田精一会長

「2023春季生活闘争勝利福島県中央総決起集会」は、3月4日（土）福島市のまちなか広場において開催し、集会は360名が参加した。諸橋連合福島事務局長、菅井福島地区連合議長が議長を務め、主催者挨拶で澤田精一会長は、ロシアによるウクライナ軍事侵攻、そしてトルコ・シリア地震・東日本大震災について触れたのち、『日本全体で、賃上げの機運が大きく高まるなかで、円安の影響により、エネルギーや原材料価格が高騰し、物価光熱費も値上がりする。厳しい状況ではあるが、賃上げを中心とした「人への投資」による未来づくり春闘の実現を労使一体となって力を合わせ、日本そして福島の未来をつくるターニングポイントにしなければならない。

先進国で唯一、約30年間賃金が上がっていない日本が、今後持続的に賃金が上昇していけるのか、分水嶺ともいえる年になっており、生産性と実質賃金を持続的に改善し、そのことにより労働者や企業に浸透したデフレマインドを断ち切り、賃金も物価も、そして、日本、福島の経済も安定的に成長、発展する経済へとステージを変えなければならない。



連帯の挨拶をする
立憲民主党県総支部
金子恵美代表

一方、中小企業からは物価上昇の中で格転嫁ができないという悲鳴が相次いでいる。中小企業で働く仲間の賃上げ実現に向けて、サプライチェーン全体で生み出した付加価値が適正に分配され、物価上昇による負担を全体で分かち合い、価格転嫁を着実に進めなければならない。労働組合が勝ち取った成果を社会・県民に示し全体に波及させること、そして春闘の成果を今年の最低賃金の引き上げに繋げて行くことが、連合福島の大きな役割である。

最後に、「くらしをまもり、未来をつくる」ため2023春季生活闘争勝利にむけて、構成組織・地域・地区連合・単組・組合一丸となって、取り組むことを確認し合いたい。そして、その先頭に立って連合福島が取り組むことを誓う』と決意を述べた。

引き続き、金子恵美立憲民主党県連代表、梅津政則国民民主党県連幹事長、高橋秀樹県民連合幹事長から連帯、激励のご挨拶を頂いた。構成組織の決意表明で、UAゼンセン・菅生次長と運輸労連・熊谷書記長の両名から強い決意が示された。



決意を述べるUAゼンセン菅生次長（左）と
運輸労連 熊谷書記長（右）



アピール採択する鈴木会長代行（左）

最低賃金のアピール採択する遠藤副会長（右）



ガンバロー三唱で決意アピール！

続き、鈴木会長代行による「集会アピール」遠藤副会長による「最低賃金賃上げの取り組みの決意表明」が採択されガンバロー三唱では、全員で拳を掲げ春闘への決意を力強くアピールし集会を終えた。集会アピール採択後のデモ行進では、声高らかに拳を掲げ、春闘への決意を力強くアピールした。

「連合アクション！街頭行動」の取り組み

「Action! 36」3月6日は、「36（サブロク）の日」

連合福島は、3月4日同日の12：00より福島駅東口エスタビル前において「連合アクション街頭行動」を実施した。サブロクの日と銘打って、長時間労働をなくし、すべての働く人たちの働き方をより良いものにするため、全国各地で「Action! 36」の取り組みを展開している。労働基準法上、時間外労働いわゆる残業が生ずる際は、労使間での36協定の締結が必要となる。

また、3月8日の国際女性デーに触れ、界各国で様々な行動が展開されているなか、連合は国際女性デーに関する行動を春季生活闘争の中に位置づけ、全国で統一行動を展開している。連合福島を代表して、澤田会長より挨拶し、続いて、立憲民主党福島県総支部連合会代表の金子恵美衆議院議員、県民連合 高橋秀樹幹事長より挨拶を頂戴し、最後に、遠藤洋副会長より街頭行動アピールを行った。



挨拶する澤田精一連合会長



立憲民主党県連 金子代表



県民連合 高橋秀樹幹事長



アピールを行う
連合福島 遠藤副会長